

一般社団法人神奈川県建築士会

SALON

No. 76

■特集

東日本大震災から5年
～災害に備える～

■新・建築探訪「鎌田商店石蔵」

■支部・委員会活動報告

2016.03

「土会の備え」

2011年3月11日に発生した東日本大震災から、まもなく5年目を迎えようとしています。神奈川県建築士会では、2004年10月23日に発生した新潟県中越地震では、派遣人数44名、活動日数5日間で、延べ111名の方が長岡市内中心に被災地住宅相談キャラバン隊に参加し、300件の相談に当たりました。また2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震では、40名の方が柏崎市全域で、137件もの被災地住宅相談に当たりました。これらの活動の中で災害時の支援体制が必要との観点から、神奈川県建築士会では、2005年5月に防災特別委員会として委員会組織を発足させました。

防災委員会では、このような経緯の中で、「平時より災害に備える」を目的に、被災地住宅相談キャラバン隊の活動を建築士会会員の方にも広く知って頂くため、2013年11月に委員会主催で士会会員対象の被災地住宅相談キャラバン隊の研修会を行いました。その後研修会の反省会を踏まえ、翌年よりキャラバン隊研修会を各支部で行う事、全体研修会では気楽に聞けない事柄なども支部会員同士であれば、気楽に聞けてより理解が深まるのではないかと意見もあり、研修会の支部開催を決めました。

ただ、支部開催についてどのように進めるか、どのような資料を用いるか、支部開催についての各支部からの戸惑いなどが寄せられました。委員会では、キャラバン隊活動の説明資料を作成し、研修会は、各支部防災委員が担当する事としました。以下は、実施報告です。

県庁職域支部	2014年11月26日	20名参加
相模原支部	2015年1月21日	14名参加
湘南支部	2015年1月23日	35名参加
川崎支部	2015年3月9日	16名参加
中支部	2015年5月23日	31名参加
横須賀支部	2015年5月29日	22名参加
小田原地方支部	2015年11月7日	15名参加
県央支部	2015年12月9日	17名参加

支部研修会開催については、最初にいろいろなお意見を頂き、各支部防災委員には、ご労をお掛けしました。担当理事、委員長、副委員長は、できるだけ各支

部の研修会に参加させて頂き、それぞれの支部の特色、研修会後の食事会を通じて支部の方との交流が図れた事は、何よりのご褒美になりました。

また、体験談を披露して頂きました方々が、昔の資料をひも解いて支部の方々に真摯な態度で説明頂いている様子を、大袈裟ではなく感動を覚えました。

以下に、貴重な意見・質問を列記してみます。

- ・応急危険度判定士とキャラバン隊はセットで取り組むのか？
- ・防災連絡網上、災害対策本部からの伝達で、支部長の役目が明確でない。むしろ防災委員が連絡や纏めを行った方が良いのではないか。
- ・現地で仮設女子トイレへの出入りが丸見えなのでもっと配慮がほしい。
- ・キャラバン隊を編成し、高速道路通行証などを入手し、被災地へ到着するまでひと仕事。
- ・キャラバン隊への登録を頂いた方の顔も確認できて活動し易くなっていくと思います。
- ・神奈川県内で大地震が発生した場合の整備が必要でコーディネーターの育成も急務ではないか。
- ・体験談を聞くことが出来良かった。
- ・神奈川県西部二市八町が連携できるような場を設けたらいかがか？



・相模原支部

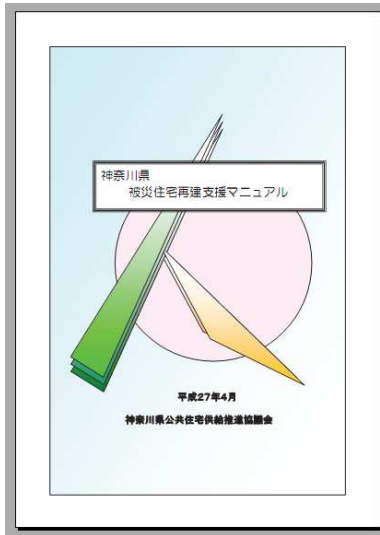
・小田原支部

小田原地方支部では、市の担当者より、応急危険度判定員の育成について詳しく説明頂きました。県央支部では、4市1町の行政の方から防災に関する活動報告の中で興味深かったのが、ある市では避難所毎に担当職員を決め、年に一度避難所設営の訓練を行っているとの事でした。このように支部毎に研修する事で、全体研修会では得られない成果があったと思います。これからも支部と支部内行政と関係を深める事で、県内災害時での円滑な対応を目指して今後も活動を継続していきたいと思います。（委員長 東 二郎）

「災害に備える」

～神奈川県被災住宅再建支援マニュアルについて～

神奈川県建築士会と神奈川県は、2005年9月、大規模災害発生時の住宅対策として、持ち家再建支援の一環である住宅相談を行う事を目的に、協定を締結しま



した。神奈川県公共住宅供給推進協議会により、この協定を反映した被災住宅再建支援マニュアルが作成されています。

昨年より、マニュアルの見直しが検討され、当会防災委員会も協力し、平成27年4月に改定版が出されました。

そこで、防災委員のスキルアップに”神奈川県被災住宅再建支援マニュアル”改定版の説明会を開催しました。

- ・日時：平成27年7月28日 午後6時～午後7時
- ・場所：建築士会会議室

神奈川県 県土整備局建築住宅 住宅計画課より、住宅企画グループ・グループリーダーの久米氏、技師の羽鳥氏に来て頂き、以下の内容で説明を受けました。

1. 背景・今後想定される地震災害

- ・災害時の住宅対策（県の取り組み）
- ・災害時住宅対策マニュアルの整備
- ・関係団体との協定

2. 災害時の住宅対策の体制

- ・災害時の県の体制
- ・災害時の活動拠点

3. 被災住宅再建支援マニュアル

- ・概要
- ・士会・防災委員会の取り組みとの対応
- ・平成26年度の見直しの経緯
- ・平成21年度見直し内容
- ・支援の流れ(窓口の設置前、設置後、終了)

・今後の取り組み課題について

以上のように、盛りだくさんな内容で、充実した説明会となりました。



災害は、県内のどこで発生するかを、確実に予測する事ができません。地震の確率が高くなっ

ている昨今、県や市町村・関係団体と建築士会の実践的な協力体制を整える事が、急務と思われます。

被災住宅再建支援マニュアルについて、ご興味ある方は、各支部防災委員までお問い合わせ下さい。

（委員 雨森隆子）

～キャラバン隊について～

会員の皆様は、ご承知のとおり、防災委員会では、被災地住宅相談キャラバン隊（以下キャラバン隊）の理解を深めて頂くため、研修会を開催して参りました。

また、災害発生時、円滑に相談員派遣の体制が取れるように、防災連絡網を整備しています。キャラバン隊研修会でも、この防災連絡網をご覧になられた方もあると思います。

しかし、防災連絡網では、キャラバン隊の登録相談員への連絡は、各支部に任されているのが現状です。支部内の防災連絡網が整備されている支部は、少ないと思われます。これでは、発災時に、円滑に連絡を周知し、要請に答えられるか懸念される所です。

上記の対策として、各支部防災委員が中心となり、防災連絡網を整備していく事が、重要となっています。

災害は、いつ発生するか分かりません！！
連絡先も、職場や自宅の電話、本人の携帯など、多くの連絡先があり、発災時間帯により、連絡先も違う事でしょう。ゆえに、確実な連絡手段の検討が急務であり、これを連絡網にいかにも盛り込むかが重要となっております。会員の皆様には、防災意識を高めて頂き、防災連絡網の整備にご協力頂きます様、よろしく願い致します。
（委員 高戸憲一）

「平成27年度海老名市防災講演会に参加して」

平成28年1月16日海老名市役所401会議室にて、平成27年度海老名市防災講演会に参加してきました。講師は、岩手県上閉伊郡大槌町町長平野公三氏で「災害時における住民の行動、共助による支援体制のあり方」について講演されました。

当時の生々しい状況の一つひとつ、かみしめる様な語りで語って頂きました。

冒頭のあいさつでは、生き残った自分にとって、今でも後ろめたい気持ちを持っている、という言葉から講演が始まりました。

津波が大槌町に押し寄せてくる状況を役場の方が

ビデオに撮っていて、そのビデオを見せて頂きました。撮影場所は、避難した高台から撮られていましたが、途中から堤防が決壊して次々と家々を飲み込み始めた所から、ビデオの音声はそこに



にいる人達の悲鳴を拾っていました。まさに大槌町が壊れていく様と表現されていましたが、津波の恐ろしさを伝える映像でしたが、忘れたらいけない映像だと思いました。

町長さんは、役場庁舎の3階屋上に避難して助かったそうですが、屋上へは、タラップを上って行かないといけないのですが、妊娠していた女性もあり、女性を優先して上らせたそうですが、ゆえに男性職員が流されてしまった方もいたらしいです。

それ故なのか当時屋上に避難して助かった人とは、それ以来顔を合わせていませんとの事でした。それぞれの方が、未だに気持ちの整理がつかず、後ろめたさを持ちながら、生きて行かなくてはならない事を考えると、本当にお気の毒で、立ち直るには相当な時間が必要なのだと教えられました。

また別の職員の方のお話では、母親が行方不明になり、もう一度優しいお母さんの顔を見たいと、自ら志願して遺体安置所で400体の遺体と関わり、最後にお

母さんと巡り合いましたが、元の優しいお母さんの顔ではなかったそうです。それまでは、遺体を見ても怖いとも思わなかったそうですが、お母さんが見つかって以来、それまで見てきた遺体の方の顔が夢に出て来るようになり、退職し、その後、電信柱に車をぶつける事故で亡くなったそうです。体の半分がなくなるほどの事故だったそうです。

若い職員が、被災後対応に追われ、睡眠不足が重なり自殺された事とか、宝塚市から派遣された方が自殺した事もあった。

亡くなられたことも気の毒であるが、心のカウンセラーが必要な方も未だ相当数いるとの事でした。



～大槌町の東日本大震災の検証～

- 防災計画での本部移行の判断基準等があいまい
- 危機管理体制の未整備
- 防災訓練が不十分
- 情報対策の不足

- 本部移行・職員避難の明確なイメージがなかった
- 巨大津波をイメージしていなかった
- 防波堤(6.4m)への過信
- 震災前3月9日の地震の過小評価
- 明治以降の津波ハザードマップへの過信

講演最後に質疑応答がありましたが、今、町長が心がけていることは、命を助けることに予算の事を考えるな、命を守ることが第一であると若い職員に言い続けているとの事です。

その後質問者から町長の心の拠り所を聞かれ、奥さんが健在で、自分を支えてくれているので復興に携わることが出来ていて、感謝していると言われていました。

講演を通じ、いまだ現地の人は、無事生き残った人も深い心の傷を負ってしまったことを知りましたが、少しでも早くその傷が癒えることを願っています。

(委員長 東 二郎)